

連合総研シンポジウム「イニシアチヴ 2009—労働法改革のグランドデザイン」
—イニシアチヴ 2009 研究委員会・最終報告会— ディスカッション・ペーパー

「イニシアチヴ 2009—新しい労働ルールの策定に向けて」研究委員会（*主査）

*水町勇一郎 東京大学社会科学研究所准教授	櫻庭 涼子 神戸大学大学院法学研究科准教授
飯田 高 成蹊大学法学部准教授	濱口桂一郎 労働政策研究・研修機構統括研究員
大石 玄 北海道大学外国語教育センター非常勤講師	両角 道代 明治学院大学法学部教授
太田 聡一 慶應義塾大学経済学部教授	<アドバイザー>
神林 龍 一橋大学経済研究所准教授	荻野 勝彦 トヨタ自動車株式会社人事部担当部長
桑村裕美子 東北大学大学院法学研究科准教授	杉山 豊治 情報労連政策局長

連合総研は、連合雇用法制対策局からの委託を受け、労働を取り巻く状況の急速な変化に対応した、労働ルールの新たなグランドデザインを提起することを目的として、2007年4月に「イニシアチヴ 2008—新しい労働ルールの策定に向けて」研究委員会（後日「イニシアチヴ 2009」に改称）を発足させた。

第5回研究委員会までの討議を経て、2007年10月に開催した中間報告会には、本テーマに関心を持つ多くの方々の参加を得た。その後、計9名の外部研究者にも講師として議論に参加いただき、2009年2月までに計22回の研究委員会を開催し、議論を深めた。

これらの成果として、本ディスカッション・ペーパーを刊行し、2009年4月22日には220名を超える参加者を得て、シンポジウムを開催した。

研究委員会では、委員やアドバイザー、オブザーバーの間で活発な意見が交わされ、なかにはメンバー間で見解の一致がみられない点もあった。本ディスカッション・ペーパーでは、こうした意見の多様性を活かしつつ今後の活発な議論を喚起するため、第1部において、水町主査のとりまとめによる労働法改革のグランドデザインを提起し、第2部においては、水町主査の提言を受ける形で、各メンバーがそれぞれの専門的な視点から意見やコメントを述べる（そこには第1部の提言と異なる見解も含まれている）という形式をとった。

目次

はじめに—本研究委員会の趣旨と経緯	—スウェーデンにおける雇用差別と法規制
第1部 《提言》労働法改革のグランドデザイン	第2章 政策研究の視点から
第1章 労働法改革の基本理念—歴史的・理論的視点から	1 労働契約法制—課題と改革の方向性
第2章 新たな労働法のグランドデザイン	2 労働時間法制—課題と改革の方向性
—5つの分野の改革の提言	3 労働市場法制—課題と改革の方向性
第2部 《提言を受けて》労働法改革の視点	第3章 経済学の視点から
第1章 比較法の視点から	1 労使コミュニケーションの再構築に向けて
1 労使関係法制—ドイツおよびフランスの動向	2 労働関係ネットワーク構築のための素描
2 労働者代表制度—スペインからの示唆	—特に「仲介者」の役割について
3 雇用差別禁止法制—ヨーロッパの動向	第4章 実務の視点から
4 雇用差別禁止法制	1 労働組合の視点から
	—職場における「公正」の確保に向けて
	2 人事労務管理の視点から